

TXから望む田んぼに描く「田んぼアート」

5月21日、新市の誕生とつくばエクスプレス開業1周年を祝し、葉の色の違う稲(古代米)を使って田んぼに巨大な絵を描く、「田んぼアート」の田植えが行われました。(場所は下小目、伊奈養護学校付近の水田)参加者は会員や協力者など総勢約60人、市からも市長や職員が参加しました。

この行事は「NPO法人古瀬の自然と文化を守る会」(代表 寺田義雄氏)が主催したものです。今年は、昨年使用した「緑」「紫」「黄色」に加えて「白」が入り、計4色。つくばエクスプレスの車窓から、上りは進行方向左側、下りは進行方向右側で、色とりどりの田んぼアートをご覧いただけます。

「古瀬の自然と文化を守る会」

寺畑地区内(古瀬)に今も残る昭和30年代の農村環境を保全しながら、都市住民と交流活動を行っているNPO法人。

平成5年、小絹小学校の児童に対し、田植えと稲刈りの指導を、寺畑地区の有志で始めたことがきっかけ。平成7年には、農業体験を通じて、絹の台自治会との交流も始まりました。また、地区内の環境整備にも取り組み、小貝川土手の植樹も行いました。(当時の名称は「桜の会」)

その後、完全無農薬の米作り、生態系に配慮した環境作りのため、農業環境技術研究所員の山弘氏(当時)のアドバイスを受けながら活動を続けました。平成11年には東京都葛飾区教育委員会との交流(川遊び体験な

ど)も始まり、同年には(社)農村環境整備センターで実施している「田んぼの学校」の全国コンテストで金賞を受賞しました。

平成14年にはNPO法人化し、正式に「古瀬の自然と文化を守る会」と名称を改めました。平成16年度には、農林水産省及び農村環境整備センターが募集した「田園自然再生活動コンクール」において、見事グランプリ(農林水産大臣賞)を受賞。

昨年は、つくばエクスプレス開業を記念して田んぼアートを実施し、さらに活動の幅を広げています。現在の会員は53人、市内に限定せず、幅広い会員が所属しています。年間を通じて延べ2千500人の交流があります。

◆問い合わせ先

事務局 小菅新一

☎090・3316・0539

寺田代表、小菅事務局長の話

「田んぼアート」は今年で2年目。2年目ということ、だいぶ自信もつきました。今年は『つくばみらい市』の文字と『市章』、それと開業1周年を迎える『つくばエクスプレス』がモチーフです。

田んぼアートは、青森県田舎館村で実施しているのですが、そこは農林水産省から古代米の苗をわけてもらって始めました。地元の方ももちろん、交流のある葛飾区などからも、たくさんの方の協力者に参加してもらっています。

今年は田んぼアートを見るための展望台も自前で作りました。田植えから2週間もすれば、絵がだんだん見えてきます。昨日よりも今日、今日よりも明日、と一日ごとに絵がはつきり見えてくるんです。6月25日(午前中)に「田んぼアート」見学会を開催予定です。

また、8月には「かかし作り」10月には「稲刈り・収穫祭」を開催する予定です。

この田んぼアートが、農村部と都市部との交流の拠点となるイベントとなれば、と考えています。今は1か所だけですが、いずれは線路の両側3、4か所で田んぼアートをやりたいですね。

会もだいぶ大きくなりました。基礎ができ、行政に頼りきりでなく、独立してやっていく会になりました。今は、みらい平周辺の新住民との交流も考えており、ネットワーク作りにも動いています。

私たち「古瀬の自然と文化を守る会」は、遊休農地の利用見本であるという自負があります。県北は観光地ですが、県南、特にこの辺は観光地ではありません。現状の土地を使ってどう人を呼ぶかが、これからの課題だと思います。

今後地域発展のため、知名度アップのために、少しでも力になれば幸いです。

完成予定図です。背景には筑波山も。

